

# 令和四年度特科隊訓練検閲



## 隊長要望事項

### 「戦場の女神たれ」

### 「常に考えて進化せよ」

### 「安全・健康を堅持せよ」



▲陣地進入する99式自走155mm榴弾砲



▲前進観測班



▲レーダ班



▲気象班



▲射撃指揮班



▲通信小隊



▲戦砲隊



▲隊長要望事項を下達する柴田隊長

(発行所)  
11特OB会

(連絡先)  
札幌市南区  
真駒内17番地

第11特科隊  
広報援護室  
TEL (011)-581-3191  
内線2645

(印刷)  
札幌造型合同会社



### 主な記事

二面 達磨「目入れ式」・令和四年度第一回隊訓練  
 三面 令和四年度山地機動訓練(夏季)等  
 四面 令和四年度新隊員特技課程及び一般陸曹候補生課程(後期)開始式  
 五面 訓練検閲優秀隊員等紹介  
 六面 昇任者・転出者・転入者・退官者紹介

隊は、令和四年五月十六日(月)から二十五日(水)までの間、真駒内駐屯地及び北海道大演習場(島松地区)において、令和四年度特科隊訓練検閲を受

特科隊訓練検閲は、応急出動準備から陣地攻撃における特科隊の行動について旅団の評価を受け、じ後の練成訓練の資を得る目的で行われた。

当初、真駒内駐屯地で実施した応急出動準備では、計画に基づき装備品等を準備するとともに、出動直前の時間を活用した各種教育訓練(ミッジョン・リハーサル)を行い、隊員に任務を完遂する覚悟と自信を付与した。

二十日(金)は、駐屯地を出発し、車両行進に引き続き集結地の占領、夜間の陣地進入及び射撃準備を行うとともに、第二十八普通科連隊・偵察隊との綿密な火力調整に基いた、火力戦闘の実施により旅団の任務達成に寄与した。

また、二十四日(火)の総合戦闘射撃では、訓練検閲で行った「機動と火力の連携」を実射訓練を通じて実行し、隊としての練度の向上を図ることができた。

本検閲間、隊長要望事項「戦場の女神たれ」「常に考えて進化せよ」「安全・健康を堅持せよ」のもと隊員は「一丸」となり、部隊及び隊員個々の能力を遺憾なく発揮し、一件の事故もなく任務を遂行した。引き続き、隊長を核心として精強な特科隊として成長するため、検閲講評における指導事項を速やかに是正し、今まで以上に旅団の戦闘に貢献できるよう気持ちを新たに

やまぶき会及び11特OB会からの激励品紹介

令和四年五月十九日(木)、特科隊グラウンドにおいて、やまぶき会及び11特OB会より頂いた、特科隊訓練検閲の激励品の紹介及び贈呈を行った。激励品は、隊長より各中隊の代者に手渡され、訓練検閲に向け、隊員達の士気が向上するとともに、日頃から特科隊に寄り添う支援をして頂いている、協力会の方々からのご厚意に対して、あらためて感謝の気持ちを抱いた。



# 達磨「目入れ式」



本部管理中隊長

最先任上級曹長

副隊長

第3中隊長

第2中隊長

第1中隊長



隊長



〔十一〕特科隊の魂を入魂  
 隊は、令和四年五月六日(金) 隊朝礼において、達磨の「目入れ式」を行った。  
 目入れは、特科隊の全隊員の筆入れにより入魂し、令和四年度の安全、任務達成及び感染症予防等を祈念するとともに、隊員一人一人が「目入れ」を行う事により達磨が隊員の「精神的支柱」になるように実施された。  
 式では、隊長を始め、副隊長、各中隊長及び最先任上級曹長による、決意表明もあり、訓練最盛期へ向け気持ちを新たにされた。  
 式後には、全隊員での記念写真が撮影され、特科隊の団結が強化されるとともに、訓練検閲に向け士気を向上させた。

# 令和四年度第一回隊訓練



▲通信競技会(無線)優勝

▲射撃指揮競技会優勝

▲機材で野外測量

▲無線中継

▲測量競技会優勝

▲基本基礎競技会  
広多無の部優勝

▲検知を行う隊員

▲射撃諸元の入力

▲基本基礎競技会  
対空MGの部優勝

▲基本基礎競技会  
化学の部優勝

▲被拘束者の対応

▲観測準備

▲基本基礎競技会  
衛生の部優勝

▲基本基礎競技会  
歩哨の部優勝

▲四周を警戒する隊員

▲疾走する155mm  
自走りゅう弾砲

隊は、令和四年四月十一日(月)から二十五日(月)までの間、真駒内駐屯地及び北海道大演習場(島松地区)において、令和四年度第一回隊訓練成訓練を実施した。  
 本訓練は、各種競技会、指揮機関訓練、中隊訓練成訓練及び隊訓練成訓練を実施して、隊の基本的行動、隊員の基礎動作に係る練度を向上させる目的で行われた。  
 各種競技会は、四月十一日(月)に、真駒内駐屯地において行われた射撃指揮競技会を皮切りに、四月十七日(日)以降は、北海道大演習場(島松地区)に場所を移して、測量競技会、通信(無線)競技会、基本基礎競技会を実施した。各競技会に参加した選手は、中隊及び個人の名誉をかけ、練成した成果を遺憾なく発揮し、技能を競い合った。  
 隊訓練成訓練は、四月二十二日(金)から一連の状況下で隊検閲を見据えた訓練を行い、中隊訓練、指揮機関訓練及び各種競技会で練成した成果を発揮するとともに、各隊員は隊長を核とした更なる部隊精強化に努めるべく気持ちを新たにされた。

# 令和四年度 山地機動訓練(夏季)

隊は、令和四年六月九日(木)から十七日(金)までの間、真駒内駐屯地周辺地域及び赤井川村阿女鱒岳周辺地域において、令和四年度山地機動訓練(夏季)を実施した。

本訓練は、山地における機動に必要な技能を修得させるとともに、第十一飛行隊と協同訓練を実施して、航空科部隊との連携強化を図る目的で行われた。

当初、前段訓練については、真駒内駐屯地及び北大演西岡地区において、ロープ結索法、懸垂下降などの基礎的な技術を修得・向上させるとともに、第十一飛行隊と協同した機動・救助の要領等について認識統一を実施した。

後段訓練は、丘珠駐屯地及び赤井川村阿女鱒岳周辺地域において、ヘリからの特殊卸下要領及びホイストによる降下・要救助者の回収要領等の協同訓練を行い、総合的な山地機動の能力について練度を向上させた。

訓練に参加した隊員からは、「実践的な訓練に参加することができ良かった。引き続き練成し、人命救助等に活かしていきたい。」とのコメントも出るなど、参加者の個々の訓練後の充実感が伝わり、第十一特科隊の山地機動能力向上など、大変実りのある訓練となった。



▲不測事態対処



▲ローダウ



▲特殊卸下(飛び降り)



▲特殊卸下(リペリング)

# 令和四年度 第十一旅団創立記念行事

隊は、令和四年六月二十六日(日)真駒内駐屯地で行われた第十一旅団創立十四周年及び真駒内駐屯地開庁六十八周年記念行事に参加した。

記念式典に先立ち、旅団長感謝状贈呈式が行われ、第十一特科隊に日頃からご支援を頂いているやまぶき会の滝野優子様、堀内万記子様並びに藤間扇玉会の藤森五月様が受賞されました。

記念式典及び観閲行進では、日頃の訓練成果を遺憾なく発揮して、来賓の方々に威風堂々とその威容を披露するとともに、迫力のある行進で観客を盛り上げた。

また、訓練展示では、旅団隷下の他部隊とともに、敵を撃破する火力戦闘部隊の一場面を展示して、旅団火力の骨幹である第十一特科隊の力を披露した。

本記念行事は、令和元年に開催して以来、三年ぶりに行われたが、部隊の威容を示し自衛隊に対する信頼感を醸成するとともに、日頃協力を頂いている方々に対する感謝の気持ちを伝えることができた記念行事となった。



▲威風堂々とした威容を披露



▲第十一特科隊長(柴田1佐)



▲観閲行進



▲訓練展示

# 第五十六回 おたる潮まつり参加

隊は、令和四年七月二十三日(土)、小樽市で行われた「第五十六回おたる潮まつり」や「つばり夏は潮だね」の潮ねりこみに参加した。

隊の、おたる潮まつりへの参加は、令和元年度以来、三年ぶりとなり、メインイベントである潮ねりこみには、士特科隊参加者三十九名を含め、五十三団体の約二千八百人の参加となり、大盛況のイベントとなった。

当日は、潮ねりこみを指導して頂いた藤間扇玉先生のほか、自衛隊小樽協力会幹事長兼やまぶき会副会長の大川氏を始め、平形さん、滝野さん、堀内さんといった自衛隊協力会・やまぶき会会員の方々が現地に駆け付け、隊員達へ、ねりこみに対する激励をしていただいた。

隊員達は、七月十九日の編成完結式以降、連日わたる厳しくも楽しい練習の成果を遺憾なく発揮して、多くの観客に自衛隊らしい、力強さと息の合った踊りを披露し、まつりを大いに盛り上げるとともに、地域住民の自衛隊に対する理解の深化と、協力基盤の醸成に寄与した。



▲自衛隊らしい踊りを披露



▲先頭に立ち隊員を先導する隊長



▲気迫あふれる隊員達



▲息の合った踊りを披露

# 令和四年度新隊員特技課程及び一般陸曹候補生課程(後期)開始式



▲元気溼刺とした申告



▲担任官訓示



▲区隊長より区隊旗授与



▲真剣な眼差しで訓示を聞く隊員達

隊は、令和四年七月四日(月)真駒内駐屯地において、令和四年度新隊員特技課程及び一般陸曹候補生課程(後期)「基本野戦砲」の教育開始式を実施した。教育開始式は、教育隊教場において行われ、第十一特科隊配置予定の隊員二十名及び第十即応機動連隊に配置される隊員六名の計二十六名で行われた。

新隊員達は、担任官(隊長柴田一佐)、教育隊長、副教育隊長及び最先任上級曹長が見守るなか、元氣溼刺とした申告を行うとともに、担任官から「戦場の女神の一員となる自覚を持って」「自ら考えて前へ」「同期の絆を深めよ」の三点を要望され、野戦特科隊員として決意を新たに、一步を踏み出した。

また、教育開始式後には、区隊旗及び武器の授与式が行われ、隊員達は、区隊旗と武器の重さに身を引き締め、後期教育開始に伴う、それぞれの熱い姿勢を確認した。

新隊員は、今後約三ヶ月にわたり、厳しい訓練の中、同期の絆を深めつつ、第一線で活躍する野戦特科隊員としての礎を築いていく。



## ～26名の若き隊員達奮闘中～



森田二士

特科隊員として一人前になれるように、何でも全力で挑みます！



山水二士

両親が安心して生きるように、身を鍛え、立派な人間になれるように頑張ります！



土屋二士

両親が安心して生きるように、身を鍛え、立派な人間になれるように頑張ります！



北出二士

学べることは全て吸収し、確実に成し遂げる！



横倉二士

立派な野戦特科隊員を目指して、自分に力一杯全力で頑張ります！



太田二士

自衛官として立派な社会人となり、両親に恩返しします！



五十嵐二士

両親を心配させないように、立派な自衛官になり、恩返しします！



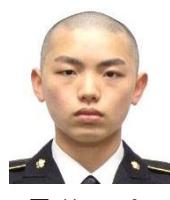
大宮二士

今まで家族に山助けてもらいました。次は自分が助けられるように頑張ります！



関二士

父母へ立派な自衛官になれるように、日々訓練に励み心身ともに成長します！



長谷二士

一期と協力し、一生懸命頑張ります！



菊地二士

学を真剣に取組む、第十特科隊員としての自覚を持ち頑張ります！



梅村二士

野戦特科に對する理解を高め、筋トレも頑張っています！



前田二士

自衛官として使命を自覚し、同期と絆を深め、どんな苦難にも乗り越えたい！



明上二士

有事の際に、一人でも多くの方々に助けられるように、日々訓練します！



松村二士

前期教育を乗り越えた自分を信じ、立派な特科隊員を目指して頑張ります！



山田二士

自衛隊に入隊して時間の大切さを知りました！



佐藤二士

班長の命令に素直に従える隊員になりたい。厳しい世界ですが頑張ります！



木村二士

日々新しい事を学び充実した日々を過ごしています！



西門二士

頼られる自衛官を目指します！



飯干二士

隊の一員として、精一杯の役に立てるよう頑張ります！



松澤二士

沢山の人の愛される人になる。場化(ばか)になる。



川浪二士

自分の限界を決めず、一杯頑張ります！



野川二士

強くなりたく、誰にも負けたくない。この手で全てを掴みとる。



福間二士

心身共に強くなる。みんなと仲良く出す。元気に。



梅野二士

実家とは、随分離れた所で勤務となりましたが、頑張ります！



矢野間二士

とても遠い場所にも来たけれど同期と力を合わせて頑張ります！

仲間と共に挑め果敢に！



引き続き情報提供を宜しくお願いします！  
募集情報は、第11特科隊ホームページ「自衛官への道」から閲覧できます！  
第11特科隊ホームページは、QRコードからアクセスできます！



### 令和4年度自衛官等募集内容

- 一般幹部候補生  
資格: 22歳以上26歳未満の者
- 一般曹候補生  
資格: 18歳以上33歳未満の者
- 自衛官候補生(男子)  
資格: 18歳以上33歳未満の者  
受付期間: 年中行っております。  
試験日: 受付時にお知らせします。

# ～令和四年度特科隊訓練検閲表彰者の紹介～

## 旅団長メダル受賞者

本部管理中隊 藤原一曹



現状に満足することなく、更なる高みを目指す。指したいと思えます。

本部管理中隊 竹山二曹



選出して頂いたことを励みに、これからも精進して参ります。ありがとうございます。

第一中隊



第一中隊の仲間の協力のおかげで受賞できたので大変光栄に思えます。これからも目標を持って日々進化していきます。

第一中隊



全員がやるべき事を行い、最後まで火力戦闘を継続する事ができました。今後も中隊に貢献していきます。

第二中隊



砲班長の指導のおかげで微力ではありますが貢献出来ました。引き続き中隊に貢献できるように努力します。

第二中隊



事前の中隊訓練で練習してきたことを発揮することができました。今後も中隊一丸となり頑張ります。

第三中隊



三中隊と戦砲隊の支えに感謝し、今後も精進を重ねていきます。

第三中隊



集成中隊という初めての経験をして、とても勉強になりました。今後も引き続き頑張ります。

本部管理中隊 花ヶ前三曹



ありがとうございます！尚、中継を返す時は、要件を簡潔に伝えるように、御協力宜しくお願いします。

第一中隊



練成した成果もあり、砲班全員が高い意識・連携・練度で実施できた。引き続き一丸となり、向上心を持ち臨みます。

第二中隊



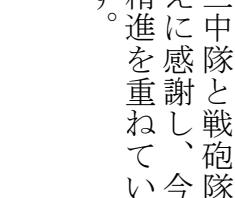
自衛警戒班が一丸となり、中隊の陣地防衛において多くの成果を獲得できた。引き続き中隊に貢献していきます。

第三中隊



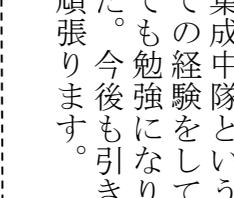
中隊の方々に協力でこのような賞を頂くことが出来ました。今後もこの賞に見合うように、精進します。

第三中隊



皆さんのおかげで、表彰を受けることができました。今後も、特科隊に貢献できるように、精進します。

第三中隊



## 令和三年度 隊優秀隊員表彰受賞者

第三中隊



渡邊二曹

## 11特OB会 新隊員への激励品の贈呈

十一特OB会は令和四年七月五日(火)、特科隊グラウンドにおいて行われた、隊朝礼にて、新隊員達に対して、激励品を贈呈した。

当初、新隊員らが一人ずつ個性豊かな自己紹介を行い、特科隊の隊員が見守る中、元氣溼刺とした姿を見せた。

紹介後、十一特OB会を代表して会長黒田氏から新隊員への激励品が贈呈されたほか、「同期の絆を大切に苦難をのりこえよう、暑さに負けずに頑張ってください」と激励をいただき、新隊員達は、大きな声で「ありがとうございます」と感謝の気持ちを響かせた。



▲元氣溼刺な姿を見せた新隊員達



▲新隊員を激励 (黒田氏)

### 七月昇任者

- 二等陸佐へ  
大槻 匡志 (隊本部)
- 一等陸尉へ  
石原 優斗 (隊本部)
- 二等陸尉へ  
河野 悠太 (第一中隊)  
西尾 亮祐 (第二中隊)  
丸山 直己 (第三中隊)
- 三等陸尉へ  
川崎 智也 (本部管理中隊)  
森崎 政喜 (第三中隊)
- 准陸尉へ  
天満 和弘 (本部管理中隊)  
澤田 亮 (本部管理中隊)
- 陸曹長へ  
本田 省起 (本部管理中隊)
- 一等陸曹へ  
竹山 一紀 (第一中隊)  
市田 直也 (第三中隊)
- 二等陸曹へ  
瀧川 美久 (本部管理中隊)  
阿部 智也 (第一中隊)  
中村 遼太郎 (第三中隊)
- 三等陸曹へ  
戸井アイリン (本部管理中隊)  
古川 稜真 (第二中隊)  
本多 大輝 (第三中隊)  
佐藤 匠 (第三中隊)  
岡田 意生 (第三中隊)

おめでとうございます  
さらなるご活躍を  
期待しています。

### 八月転出者

- 隊本部  
二等陸佐 大槻 匡志  
第二特科連隊(旭川)へ
- 第二中隊長(第六代)  
一等陸尉 村田 智宣  
千葉地方協力本部(千葉)へ
- 本部管理中隊  
一等陸曹 早川 広勝  
第二百二十教育大隊(真駒内)へ
- 一等陸曹 當麻 太一  
丘駐屯地業務隊(丘珠)へ
- 二等陸曹 都郷 恭明  
第二百二十教育大隊(真駒内)へ
- 第一中隊  
二等陸尉 河野 悠太  
特科教導隊(富士)へ
- 第二中隊  
三等陸曹 竹内 一步  
第十三特科隊(日本原)へ
- 三等陸曹 田川 陽介  
第十一旅団司令部付隊(真駒内)へ
- 第三中隊  
二等陸曹 宗像 大誉  
東北方面特科連隊(郡山)へ



ありがとうございます  
ございました  
新任地での活躍を  
祈念いたします。

### 八月転入者

- 第七代 第二中隊長  
岩塚三佐 着任
- 隊本部  
三等陸佐 佐々木 英壽  
札幌駐屯地業務隊(札幌)より
- 三等陸佐 木村 孝行  
富士学校(富士)より
- 本部管理中隊  
一等陸曹 佐藤 万昭  
第二百二十教育大隊(真駒内)より
- 一等陸曹 永塚 裕幸  
札幌駐屯地業務隊(札幌)より
- 二等陸曹 菅原 良介  
特科教導隊(富士)より
- 第二中隊  
二等陸曹 小木田 樹彦  
西方特科隊(湯布院)より
- 三等陸曹 林 健斗  
第一陸曹教育隊(東千歳)より
- 第三中隊  
一等陸曹 移川 幸夫  
北部方面後方支援隊(真駒内)より
- 二等陸曹 杉坂 英倫  
北部方面総監部付隊(札幌)より



三等陸佐 岩塚 祐治  
前勤務地 第七特科連隊(東千歳)

### 定年退官者



中村一尉 4.5.4付 (札幌市中央区)  
嶋田准尉 4.4.1付 (札幌市白石区)  
吉田准尉 4.8.11付 (札幌市中央区)  
天野三尉 4.7.25付 (札幌市中央区)

### OBの方へ連絡とお願い

一 入門証について  
現在、期限切れの入門証をお持ちの方で今後必要とされる方は、更新手続きをお願いいたします。  
手続きに関しては、「特科隊広報・援護室」にて行います。  
電話〇一一一五八一―三一九一(内線二六四七)担当 藪本

二 叙位及び死亡叙勲に関する手続きについて  
自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は叙勲の対象となります。特に死亡叙勲は、ご遺族からの申し出によって手続きを進める事になりますが、手続きの期間が限られており、この期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなり、万が一ご本人がご逝去された場合は、死亡日を含め五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へ連絡下さい。また、ご家族皆様へお伝えいただくようお願い申し上げます。

三 OB会総会及び懇親会中止についてご報告  
日頃より本会の活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。  
本年度も昨年同様に新型コロナウイルスの感染拡大防止のためOB会の総会及び懇親会を中止させて頂きます。  
まだまだ先の見通しづらい状況ではありますが、ご自愛のほど心よりお祈りしております。

代表幹事寺本 充幸